

オープン標準の現状

回答者の73%は、**標準化をセールスポイントとして活用している**と答えています。



回答者の77%は、**標準化が市場の成熟と成長を促進すること**を認めています。



回答者の76%は、**標準化が競争とイノベーションを促進すること**を認めています。



回答者の84%は、**ロイヤリティフリーの標準に脅威を感じていません**。

回答者の78%は、**ロイヤリティフリーの標準は高い価値を生み出す**と言っています。



回答者の75%は、**仕様が広くレビューされることが極めてまたは非常に重要である**と考えています。

回答者の77%は、**標準必須特許を収益化しても大きな投資収益にはならない**と考えています。



回答者の1.6倍が、**特許出願よりもオープンモデルの採用をイノベーションの指標**と見なしています。

防御的な特許戦略を採用する割合は、攻撃的な特許戦略を採用する割合の3.8倍です。



組織の66%は、主に**ロイヤリティフリーの特許ポリシーを持つ標準化団体に入っています**。



標準策定に参加する最大の理由は、**システムまたはサービスの相互運用性を向上させる**ことです。



回答者のわずか19%が、**知的財産の漏洩への懸念を標準策定への参加の障害としてあげています**。

